

京都産業大学同窓会 宮崎県支部便り

2012(平成24)年
第5号

発行日 2012年1月1日

発行 京都産業大学

同窓会宮崎県支部

E-mail ksu383ki@yahoo.co.jp



ごあいさつ

宮崎県支部 支部長 佐藤 知徳

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年、今年こそ平穏な宮崎であってほしいと思っていた矢先に、鳥インフルエンザが県内数箇所が発生。そして、新燃岳の噴火。口蹄疫に引き続き、ニュースで全国に報道される日々でした。

鳥インフルエンザでは、同窓会宮崎県支部の複数の会員が現場で様々な作業にあたりました。新燃岳の空振は強烈で長時間に及び、空振を初めて経験するという方も多かったでしょう。宮崎市内でも、マンションなどの高層階では、夜中に噴火の赤い炎がはっきり見えたそうです。



「どうして宮崎だけが」そんな思いも、3月11日には吹き飛びました。東日本大震災のことは、皆さんの記憶に強く刻まれているでしょう。

個人的なことです。東北は、私が宮崎に戻ってくる前に仕事をしていた思い出の地です。東北は、人柄も素朴で、お米や魚、お酒のおいしい、すばらしい所です。あの仙台空港が津波にのまれ、滑走路が川のようになっていく様子、宮城県石巻市の街の壊滅状態。何度も行ったことがある街なの

に、映像を見ている、石巻のどのあたりなのか、全くわからない状態でした。

3月末、宮崎からの災害支援チームの一員として、東北のある沿岸部に入りましたが、街中にたくさんの車と大きな船が転がっている光景は、一生忘れることができないでしょう。同窓会宮崎県支部から、義援金を送金させていただきました。簡単なことではないと思いますが、悲しみや苦難を乗り越え、被災地の復興を心からお祈りする次第です。

合宿関係にも触れておきましょう。昨夏、京都産業大学サッカー部が宮崎で初めてとなる合宿を行いました。合宿後、関西大学サッカー2部Aブロックで優勝。来シーズンからの1部昇格を決めました。サッカー部は今年も宮崎での合宿を計画しているとのこと。ぜひ皆さんの応援をお願いします。

また、一昨年から何度も宮崎で合宿を行ったラグビー日本代表には、京都産業大学ラグビー部出身で、パナソニック所属の田中史朗(ふみあき)選手がおり、正スクラムハーフとして、ラグビーワールドカップに出場。密集からの早く正確なパス回しで、大いに楽しませてくれました。

今年はどのような年になるのでしょうか。日本全体で震災を乗り越え、元気な日本、宮崎でありたいものです。

新しい年が、皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますよう心からお祈り申し上げまして、年頭のごあいさつといたします。

会員短信

射撃部の思い出

高嶋 和彦(平成7年工学部卒)

私が京都産業大学に入学したのは、今から約20年前になりますが、もともと生物工学(バイオテクノロジー)に興味があり、京産大が志望大学でもあったため大学合格通知を受け取ったことは鮮明に覚えています。

しかし、大学に入れば当初の志とは裏腹に大学の勉学よりもクラブ活動に時間を費やした日々でありました。もともとスポーツは好きでしたが運動音痴?であったため、自分でも活躍できるスポーツは何かと

考え、足のサイズが大きいからという理由で体育会射撃部の門をたたいたものでした。

というのも、射撃は立って止まっていればいいのかと単純に考えていたのですが、それは全く違うものだとなんて気づかされました。まさに集中力のスポーツであり、「ただ止まるだけ」と「集中して静止する」との差は歴然でありました。また、汗かきの私としては、「集中して静止すること」で、出る大量の汗にも苦しみました。集中して静止する時の汗は、まさにサウナ状態であり、他の部員からは「高嶋が溶けている」とよく冷やかされたもの

でした。

そのようなことで、早い段階で自分の腕には見切りをつけ、どちらかという工学部で忙しいからという理由をつけてさぼりがちの部員でもありました。当時は理系の部員はほとんどいなく、さぼる口実にできたのもありました。当然、射撃の腕は思うように上がらなかったのですが、4年間を通していろいろなことを学んだ場でもありました。射撃部といえど、体育会であり、

上下関係は厳しく、そのことは社会に出てからも役立ちました。また、苦楽を伴にした同期とは、大学卒業後も親交を続ける一生の友人ともなりました。

結婚式に呼ばれるのが同窓会みたいなものでしたが、同期も全て結婚し、会う機会もほとんどなくなりましたが、今年度で40歳となり区切りの年であるため、機会をつくって同窓会をしたいと思う今日このごろです。

京都産業大学体育会サッカー部宮崎合宿

京都産業大学サッカー部が昨年9月4日から9月10日まで、西都市清水台総合運動公園で合宿を行い、宮崎県支部から差し入れと激励を行いました。

現在、部員は75名で、今回の宮崎合宿には1軍の30名が参加。これまでは、愛媛県での合宿だったそうですが、花山GMが春のJリーグキャンプで宮崎の合宿の環境の良さを実感し、今回の宮崎合宿となったそうです。

今回の宮崎合宿には、宮崎出身で1回生の上大田悟選手（日章学園高校卒）も参加していました。

サッカー部は、合宿後の秋季リーグ戦でも健闘。通算15勝1敗3分けで関西大学サッカー2部リーグAブロックで優勝。来

季からの1部リーグ復帰を果たしました。

今年も宮崎合宿を計画しているようです。合宿が決まりましたら、宮崎県支部ホームページなどでお知らせしますので、皆さん、サッカー部の宮崎合宿を、宮崎出身の上大田選手と一緒に応援し、1部リーグでの活躍を期待しましょう。



左から上大田選手、黒木幹事長、赤堀主将

ラグビー日本代表宮崎合宿



フランス戦でパスする田中選手

昨年、ニュージーランドで開催されたラグビーワールドカップ。日本は予選リーグで1分け3敗。残念でしたが、正スクラムハーフとして、京都産業大学出身の田中史朗選手は、すばやい球出しと、俊敏な動きで随所にいいプレーを見せてくれました。

合宿（シーガイアイベントスクエア）で練習を終え、グラウンドから出てきた田中選手と我が京都産業大学ラグビーのヒーロー、大畑大介氏のツーショットを撮ろうと思いましたが、大畑氏はグラウンド内でテレビ局のスタッフと話しをしていて、入りづらい雰囲気だったので、田中選手から頼

んでもらうことにしました。

「田中さん、大畑さんとツーショットをお願いしたいんだけど、ちょっと大畑さんに声をかけてもらえますか？」

「え、ボクが言うんすか？」

「ラグビー部の先輩でしょ？よろしく。」

「えー、めっちゃ緊張するんすけど・・・」

と、本当に恐る恐る声をかけに行ってくれました。

童顔の田中選手は、いつも山田花子似の笑顔で丁寧に應對してくれます。ニュージーランドでは、小学生に間違えられたりもしたとか。田中選手の今後ますますの活躍



を期待しましょう。

遠慮がちに先輩に声をかける田中選手（後姿）とにこやかに応じる大畑氏

京都産業大学同窓会本部役員就任のお知らせ

宮崎県支部から次の2名が本部役員就任。任期は平成23年12月1日から3年間です。

理事 黒木宣博（本県支部幹事長） 昭和51年外国語学部卒、理事就任3期目

評議員 佐藤知徳（本県支部長） 昭和58年経済学部卒、九州の支部長から2名就任